

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503924		
法人名	有限会社 アイ		
事業所名	グループホーム 澄川の丘 さくら		
所在地	札幌市南区澄川6条7丁目1番1号		
自己評価作成日	2020年1月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani%2Fue&JigvosyoCd=0170503924-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	令和2年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域でその人らしく豊かな生活が出来る様、援助していく」という理念のもと、日常の業務に取り組んでおり理念を朝のミーティング時に職員間で復唱している。また一人一人の思いを実践できる事を目標に置き職員で共有を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し町内清掃の行事に参加している。地域のお店で買物をしたり美容室を利用したり花壇の手入れなども手伝って頂き地域の交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア活動の受け入れ小中学校からの職場体験実習、初任者研修の実習先としての受け入れも随時行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催を行っており御家族、町内会の代表の方、包括支援センターの方に対して活動報告、事故報告(原因、再発防止を含む)をお伝えし、利用者様の日常生活状況や、外出時の様子をスライドショーを用いてお伝えし要望や意見も伺っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、区での管理者会議が定期的に行われており、毎回出席している。また不明な点がある際は出向いたり電話など使用し連携協力出来るように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3カ月に1度開催し施設内研修、施設外研修と計画を立て全職員の意識向上に努めている。また、改善すべき点に着目した目標設定毎週掲げ、朝のミーティング時に復唱し、職員同士でも注意しやすい環境を作っている。施錠についても、夜間以外は施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会で拘束や虐待を排除するケアについて意見交換をし、それを全職員に伝達し防止に努めている。又積極的に外部研修に参加し拘束や虐待の意識をしっかりと持てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会にて取り組んではいるが今後も学ぶ場を増やして取り組んでいき、職員みんなが理解出来るように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約や改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族様にお会いし、十分な説明を出来る場を設けてご理解を頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には普段の生活の中で不満や要望などをお聞きしている。ご家族様にも面会時や運営推進会議にてご意見・ご要望を伺い改善出来るように取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、毎月のカンファレンス、管理職会議、主任会議、年2回の人事考課を行い意見などを聞く機会を設けている。また個人面談など定期的に行い意見を反映できる様に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調やストレスに気を配り、また処遇改善交付金の活用にて労働条件の改善を図っている。毎月のカンファレンスを日中に行い負担の軽減に努めている。出産休暇や育児休暇の取得も出来る様環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修(勉強会)など職員のスキルにあった研修の参加、自主的な希望の研修(外部研修)に対しても、研修費や交通費の支給を行い職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会議や南区の一部の地域で計画作成担当者の勉強会や交流会を行ないサービスの質の向上を目指す取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と会い認知症状・全身状態・生活状況を確認し、ご家族様や関係者様からも情報を聞いている。職員間で情報を共有し信頼関係を築ける様に努め、安心出来る様な支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の事前面談にてホーム内を見学して頂き、ここでの暮らしの説明を行っている。生活していくにあたっての不安やご要望や意見をお聞きしている。安心して入居が出来るような対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時などで不安や要望や必要としているサービスの内容などを聞きそれに応じられるようにその方にあつた支援内容の検討を行い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の気持ちや想いをくみ取り、敬う気持ちを持ちながら家事(タオル干し、洗濯物たため、食器拭き)などお手伝いして頂き、残存機能を把握し生かすための支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には普段の生活の様子をお伝えしお部屋やラウンジなどでゆっくりと過ごして頂いている。またクリスマス会や外出レクなどのホームの行事にも多くのご家族様に参加して頂き、一緒に楽しまれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの面会の際にはラウンジやお部屋などでゆっくりと楽しい時間を過ごして頂けるよう努めている。また上手く気持ちを言葉で伝えられない方への支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、席の配置を考慮し居間やラウンジにてお茶会や体操、唄会等、レクリエーションを行い職員が紹介しながらお話ししたりと楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も年賀状をうけたり入院等のお見舞いを行ったりと関係性を大切にしている。またクリスマス会や新年会等、ホームの行事に参加されている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の行動や言葉、表情をしっかりと把握しカンファレンスで職員間の意見情報を共有し利用者様の思いを実現できる環境作りを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活暦等をお聞きし職員間で情報共有を行いその方らしい生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状況を生活記録に記入し希望に沿ったケア等ができるように検討を行い、特記事項や連絡事項は連絡ノートに記入し職員全員が把握出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員は介護計画に沿ったモニタリングを実施しカンファレンスでは現状の把握とケアの検討を行なっている。又それに基づき計画作成担当者がアセスメント・評価・実施を行い介護計画の見直しを随時行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人個別にバイタル表、生活記録受診報告書に記入しご家族様にも見ていただけるようにし職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスに遊びに行ったり他のユニットと合同でレクリエーションを企画したりと利用者様のニーズを把握しサービスが出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の方に避難訓練等の協力を頂き利用者様も参加している。又、近隣の中学校の職場体験を受け入れ利用者様とのコミュニケーションなど地域との繋がりを持てるような支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の往診を2週間に1度受けている。体調不良時には看護師とご家族様への連絡を行い、かかりつけ医と連携をとっている。かかりつけ医の指示で受診が必要な際は、受診を行い支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日頃から利用者様の健康状態の把握をし、往診に立ち会い、受診の同行もし、常に相談できる環境になっている(医療連携)。また、看護師が夕方巡回に来るだけでなく、夜間においても異常があった際は駆けつけてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は職員もお見舞いをし、状態の把握を行う。またムンテラにも同席させて頂き方向性についても検討をしている。また利用者様の環境の変化がないように通院でフォローできる際はフォローを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際重度化の指針は説明しており常時医療が必要な際はホームでの対応に限界があることもお伝えしている。また重度化した際はご家族様と話し合いをし利用者様にとってより良い環境で終末期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しすぐ確認出来る場所に保管している。また消防署で行なわれている救命救急の講習を受講し実践力を身に付けられるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度防災避難訓練を実践すると共に消防への自動通報システム・スプリンクラー・セコムへの自動通報システムも設置している。又最近では自然災害が多く職員1人ひとりの意識改革も図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格を尊重し、個性に応じて心に寄り添う声かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを日頃の会話や表情から汲み取って希望に沿った暮らしができるように利用者様の顔を毎日きちんと見ていくように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の生活リズムを大切に、希望に沿った生活が出来るように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が訪問し散髪や毛染めをされる方もいる。美容室で切られる方もいる。ホームでは身だしなみ以外にも化粧をされたりスカーフを巻いたりとおしゃれに対する支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを把握しメニューに取り入れ自分で箸を持って食べる美味しさを感じてもらいながら調理の味見や食器拭き、もやしのヒゲ取り等のお手伝いもして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重、食事量、水分量を把握し栄養バランスを考慮しながらのメニューになっている。また嚥下や咀嚼の状態により刻み食やミキサー食など臨機応変に対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は義歯洗浄、歯磨きの口腔ケアを実施している(入居者様に合わせて歯間ブラシや口腔スポンジを使用)また口腔内の状態によっては訪問歯科を利用し専門の方による口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握できるよう努めている。又、自分の気持ちを言葉に出来ない方は、サインや表情を読み取りトイレへお連れし、出来るだけトイレで排泄できるように支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト等の乳製品やお通じに良い食べ物や飲み物を促したり、水分を多く摂れるよう心がけている。また体操や散歩を促し、負担のかからない程度に体を動かすよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様、一人一人の要望やタイミングに合わせて入浴を行っている。また、リフト浴も利用し安心して気持ちよく入浴して頂けるよう配慮を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活サイクルを大切にしその日の体調を見ながら休息をとって頂いている。夜間は気持ちよく眠られるように、日中の活動を増やしたり日光浴をされるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理しており、袋には名前、日付、朝・昼・夕・就寝等、記載し、服薬時に確認(誤薬防止の為、他の職員にも確認)、飲み込むまで見守りをしている。嚥下状態によってはオリゴ糖を使用し内服して頂いている。変更がある際は職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を把握し、一人一人に合わせて役割を持って頂いている。負担にならない程度に食器拭き、洗濯物たたみ、モップ掛け、裁縫などをお手伝いして頂きメリハリある生活を送れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温を配慮しながら、近隣への散歩、外気浴、買物などお誘いしている。ドライブ外出も行い、利用者様の行きたい場所をリサーチし札幌市内または小樽や余市など幅広く外出を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と話し合い、利用者様にも同意を得た上で職員がお金の管理を代行している。また少額お財布を持たれていただける方もいらっしゃる。外出レクでは職員と一緒に買い物を楽しむ様子みられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際はいつでも自由にご家族様やご兄弟様、ご友人様などに電話をかけたり手紙の代筆も行う支援を行っている(希望があれば年賀状作成も)		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには誕生日会や行事の写真を貼る事により話題の提供や楽しい思い出を回想していただけるような工夫を行っている。また利用者様にとって心地よい音楽を流すなどリラックス出来る空間作りを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係性を考慮しリビングの席の配置を考えラウンジや和室を有効に活用し気の合った利用者様同士で過ごせるような工夫を行っている。居室でも過ごしやすい様に温度や湿度の環境の整備に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みの家具を配置し写真や手作りの作品などを置きご本人が居心地良くいられる空間作りの工夫をご本人様とご家族様と職員とで行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活が送れるよう、歩行器など福祉用具の使用や手すり、クッションフロアーの設備など住環境を整えている。浴室にはリフトを設備し、安全・安心した入浴の提供に努めている。		